



大丸親水公園

毎年私は田植えの時期が待ち遠しい。田んぼに水が入ると蛙が一斉に鳴き出し、その鳴き声に癒されるからである。いわゆる「蛙の歌」には数学的な美しい法則が隠されているといわれる。雄は隣同士タイミングをずらしお互いに譲り合って鳴く。この譲り合いの声の響きこそが心地よい自然音となって聞こえてくるのである。

私の住まいがある稲城市には今でも田畑が点在している。夏の水田では夜になると一帯が「蛙の歌」に包まれる。大音量にもかかわらず、それを聞くと肩の力がすっと抜け一日の疲れが消えてなくなる、そんな不思議な感覚を味わうことが出来る。

稲城市の水田は、大丸用水から取水している。大丸用水は、稲城市大丸の多摩川から取水し川崎市登戸まで流れる農業用水である。江戸時代以降、稲城市域の村々および下流の村々の田畑を潤し続けてきた。近年、宅地造成などにより水田が減少し、農業用水としての機能を失いつつある。不要となった用水は埋め立てられ、最近では新たに親水公園として整備されている。

水田から親水公園へ姿を変えてもなお貴重な水辺として生き続ける…
「蛙の歌」はこの先も人々の心を癒し続けるであろう。（広報室：松本）

参考文献
稲城市観光協会
<https://inagi-kanko.jp/?p=we-page-top-1>

